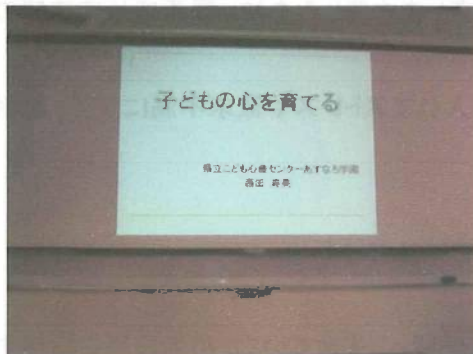


子ども虐待防止講演会「子どもの心を育てる」を聴いてきました



講師

県立こども心療センターあすなろ学園長：西田寿美先生

11日、中央公民館で西田園長の講演会がありましたので聴いてきました。

エリクソンの人格発達論などひじょうに勉強になったので簡単にまとめました。まずは参考までに。

エリクソンの人格発達論

- 乳育期(誕生～2歳): 基本的信頼感の獲得⇒ 生まれてよかった
 人(親)を信頼するということは、**自分が望んだように愛されること。⇒この事がシンプルですが一番大切です。日々付き合うことが大切です。**
 あるいは十分な母子一体感を体験することによって育てられる。
- 育兒期(2～4歳): 自律性の獲得⇒ 我慢したら良いことがある
 自分の衝動や感情を自制することと社会のルールを守ることが出来るようになる。
家庭のルールを守ること。達成したら十分ホメル。
- 児童期(4～7歳): 自発性⇒ 自分で試したい
 実験や創造のもとになる行動に関してどれくらい根気よく認めてあげられるか。
失敗しても怒らない。
- 学童期(7～12歳): 勤勉性⇒ やり遂げる満足感
 周囲から期待されていることを自発的にそして習慣的に実行すること。
 友達から学ぶ、友達に教えることに意義がある。
- 青年期(12～18歳): 同一性⇒ 自分はこれでやっていこう
 外から与えられた自分の姿と主体的な自分を統合させ社会的な存在としての自分を実感する。
大人からのホメられていないカードをもらっても良い選択ができないです

愛着障害についても以下のようにまとめていました。

無神経で不注意な世話や虐待・放置などあやまった養育

↓
愛着欠如(愛されていない)

↓
自制能力と人間関係の構成能力に障害

↓
愛着欠如過剰行動障害

衝動的、過激行動的、不注意、刺激を求め感情を行動に移す。自己に否定的観念を持ち、反抗的・挑発的・破壊的。友達を作らず叱られることをして注目を集める。人を操る。触れられたり目を見られるのを嫌がる。自責の念に欠け責任を転嫁する。

安定した愛着関係より学ぶことは・・・。

- 両親又は愛着の絆を結んだ大人を手本とする⇒学習態度や常識の芽生え
- 両親又は愛着の絆を結んだ大人の価値観や行動を自分の中に取り入れる⇒良心の芽生えと育成
- 早期の愛着関係で同時性(シンクロシティ)を経験する⇒共感や同情、思いやりが育ち他者との安定した人間関係を作り保つ能力の芽生え
- 相互性(レシプロシティ)を経験する⇒愛する人を喜ばず喜びや悲しまず悲しみを知り罪悪感や道德観の芽生え
- 肯定的な自己意識を育む⇒愛する人の支援を自分の中に取り入れてストレスや欲求不満に耐え、忍耐力や目的に向けて努力する能力を培う

育ちの環境の大切さ(4年生までくらいには体験することが大切と先生はコメント)

- 精神的自立とは⇒自己決定できること
- 人間は人と関わる心地よさや楽しさから周囲の人のまねをして練習し、生きていくための技術を獲得する。
- 生まれつき「興味や注意の向け方」や「人と関わることへの意欲」に偏りがあれば社会不適応になるのは当然である。
- 生まれつきの障がいがあればなおさらどう育てられるかが重要となる。

大人の役割では先生はこのようにまとめておりました。

- ★ 子どもに正直に丁寧に対応する
ミスがあれば素直に子どもに謝る(言い訳はダメ)
- ★ 子どもの多面性を肯定的にとらえる
- ★ 子どもに生きる知恵を教える
生活のスキルを教える
- ★ 子どもの健康な部分を大切に育む
健康な部分を育てると弱い部分をカバーできる
- ★ いつも気にかけて心配し見守る
- ★ 具体的生活支援と社会的援助体制作り

以上